

「誰かのため、自分のために・・・」

福岡市立高取中学校

吉野 慧

今年の六月中旬、祖母から電話があった。

「コロナウイルスのワクチンを接種してきたよ。これで前よりも安心して仕事ができるし、今年はおなたたちに会えるかもしれない。」

と祖母が言った。コロナが蔓延してからもう一年半以上、私は祖父母に会っていない。祖父母にとってコロナウイルスのワクチンを接種できたことは、今後の安心や励みに繋がっているようだ。

このコロナウイルスのワクチンは無料で国民が接種できるようになったが、この財源は税によって賄われているとのことだ。日本では、生まれた時からポリオや結核などのワクチン接種を無料で受けることができる。年間三十五兆円(国の歳出の約三十四%)が社会保障のために使われている。また、令和三年度は十三兆円以上が新型コロナウイルス対策に使われるとのことだ。私の想像をはるかに超えるこの金額は、現在働いてくれる方が納める所得税や毎日の買い物で納める消費税などが集められたものである。二年前から、食品以外の商品を買うと十%の消費税がかかるようになった。私は、消費税が上がったことにネガティブな思いでいたが、この消費税が毎日の安心した生活に役立っていると知ってから、自分も見えない誰かの役に立てているかもしれないと嬉しさを感じられるようになった。

発展途上国の中には、今でもコロナウイルスのワクチンどころか、日本では当たり前を受けられる予防接種もできない国がたくさんある。そして、毎日たくさんの小さな子供たちがワクチン接種をしておけば防げるような病気にかかり命を落としている。このような状況を受け、日本はワクチンが不足している国にワクチンを提供する手助けを行っているそうだ。この費用の一部も国民が納める税である。納めた税が直接私たちの生活に返って来なくても、どこかで誰かの大切な命を救っているということは嬉しいことだ。

税による恩恵は私も毎日受けている。例えば学校が休みで雨がひどく降っているため家で一日過ごしたとする。しかし、この一日も自分だけの力では過ごせない。蛇口をひねれば水が出る。雨による被害が出ないように河川の整備がされている。困った人がいないかと警察官がパトロールしてくれる。これらは全て税によって賄われた財源によって整えられた環境である。私の毎日の生活は、見えない誰かが納めてくれた税によって支えられている。

税をただ納めていると考えると納税は苦しいかもしれない。しかし、税がどのように使われているか知ることで見方が変わる。働くようになると税はますます身近なものになってくるだろう。その時私は見えない誰かのために、大切な家族のために、自分のために税を納めたい。